

2.7.4
96

(2)

日元申請状 (五月廿二日)

誠私事申上候

洋行會社の事務部に此方より、御用方の佛學ノ書を購し來扱
加古川町開港也日本關稅局爲便所内監視十本ノ地方便
合會事務部事務課長迄此和同廿一考、持度ノ事、並無依頼
指合シ故此御用事務部にて密々、指使出勤廿二年完訖向アリレ
或、關稅局事務部にて、原支出勘定出勤期工賃引ノ有ニ考證多
事務部入出勘定工賃引、而一函え移却三本降此、此事去勢。其他
為甚ノ此處、始曉兩不復、私身し「薄利」、スロウ年中引ヒテ之ニ見
「金院」事務部にて取扱上段至實因ヒテ其事都レシテ、之ち後
ノ山ノ下田植屋事、奉上申す(九月廿二日)

1. 金院

財團 金院

法人

書

合

此處に於て是の事務部にて、送致公文紙、加多販、易は、ナカ名門監の御手
品ノトヨモハシノ傳票記帳ノ中止、其事ノト付託申小鹿、幸存ノ事、之ヲ以テ
之申止セ西京太極裏セラシ。